

# 東濃地区

## 133 岐阜県現代陶芸美術館

(多治見市東町4-2-5、TEL 0572-28-3100)

セラミックパークMINOの中核施設として平成14(2002)年に開館した県営の美術館である。近現代の陶芸を専門としており、国内は明治以降、国外は19世紀末以降における個人作家の陶芸作品、実用陶磁器、産業陶磁器を収集・所蔵し、展覧会を開催している。

入館料：大人340円、大学生220円 高校生以下無料  
休館日：月曜日(休日の場合翌平日)、年末年始



## 134 多治見市美濃焼ミュージアム

(多治見市東町1-9-27、TEL 0572-23-1191)

平成24(2012)年に新しくスタートした多治見市美濃焼ミュージアムは、美濃焼の歴史と現在を紹介する資料館。飛鳥時代から現代までの美濃焼1300年の流れや、人間国宝をはじめ美濃を代表する陶芸作家の作品を展示している。年4回以上の地域に根ざした企画展を開催している。

入館料：一般 320円 大学生 210円、高校生以下無料  
休館日：月曜日(祝日の場合翌平日)、年末年始



## 135 多治見市文化財保護センター

(多治見市旭ヶ丘10-6-26、TEL 0572-25-8633)

多治見市内の文化財保護を行う機関で、市内の遺跡の発掘出土品を中心に美濃の古陶器、窯道具等の民俗資料を収蔵し、収蔵資料を使って地域の歴史を紹介する企画展を開催している。

入館料：無料

休館日：土・日曜日、祝日、年末年始



## 136 多治見市モザイクタイルミュージアム

(多治見市笠原町2082-5、TEL 0572-43-5101)

多治見市笠原町は、施釉磁器モザイクタイルの発祥の地であり、全国一の生産量を誇る。その笠原町に、モザイクタイルの魅力や歴史、技術を広く知ってもらうために出来た博物館である。藤森照信氏の設計による建物は、原料を掘り出す「粘土山」を思わせるユニークなデザインである。

入館料：大人310円 高校生以下無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合翌日)、年末年始



©Akitsugu Kojima

### 137 市之倉さかづき美術館

(多治見市市之倉町6-30-1、TEL 0572-24-5911)

市之倉は山間の小集落で、交通の便が悪く良質の原料に乏しく、少量の土で作ることができて、運びやすい盃や煎茶器の産地となった。その市之倉で幕末から昭和にかけてつくられた精緻な盃や変わり盃など約1500を展示している。2階の巨匠館では地元縁のある人間国宝や巨匠8名の陶芸作品を展示している。

入館料：大人400円、大高生200円、中学生以下無料  
休館日：火曜日（祝日の場合翌日）、年末年始



### 138 幸兵衛窯本館 (幸兵衛窯)

(多治見市市之倉町4-124、TEL 0572-22-3821)

ラスター彩の復元で有名な人間国宝加藤卓男の代表作を展示。隣接する古陶磁資料館や工芸館ではペルシヤ古陶、古代ガラス、五代・七代加藤幸兵衛、八代加藤亮太郎の作品などが鑑賞できる。

入館料：大人300円、高校生150円、（お買い物のみの方は無料）

休館日：年末年始、夏期休暇、その他展示入替日



### 139 とうしん美濃陶芸美術館 (東濃信用金庫)

(多治見市虎溪山町4-13-1、TEL 0572-22-1155)

東濃信用金庫が地域の人材育成と美濃陶芸文化の発信を目的として「とうしん学びの丘“エール”」内に平成27(2015)年に開館した美術館。自生の大王松を取り囲むように建設された円形の建物が特徴的で、年数回展示入替をしながら、所蔵するコレクションをはじめ、人間国宝から若手作家までの様々な企画展を開催し、現代美濃陶芸の作品を紹介している。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合翌平日）、展示替期間、年末年始



### 140 池田町屋郷土資料館

(多治見市池田町7-85、TEL 0572-23-4841)

江戸時代、中山道と東海道を結ぶ脇街道である下街道があり、池田宿はその宿場町として栄えた。明治33年に鉄道（中央線）が開通すると、繁栄は多治見に移り、宿場は衰退していった。この地域の歴史を後世に残すため、民家を資料館に改装して、収集された郷土の民具や歴史資料を展示している。

入館料：無料

休館日：月・火・木・金曜日、年末年始



### 141 博物館 多治見商人物語

(多治見市本町5-9-1、

問合せ先 陶都創造館 TEL 0572-26-8509)

陶都創造館は、多治見の本町オリベストリートにある情報発信拠点である。3階にある博物館では、古くから陶器商が集まっていた本町に関する、展示パネルや工具、実際の焼き物が展示され、多治見の陶器製造販売の歴史を辿ることができる。また、隣接するギャラリーヴォイスでは、展覧会や絵付け体験ができる。

入館料：無料

休館日：水曜日、年末年始



### 142 多治見西浦記念館 (多治見市御幸町3-12、

問合せ先 NPO法人多治見西浦伝彰会

担当小島 TEL 090-1988-8775)

明治13(1880)年、明治天皇が伊勢への御巡幸の途中に多治見の西浦家にお泊りになった。現在は、そのときの庭園しか残っていないが、庭園は市の文化財に指定されている。西浦家は、明治に美濃焼の高級品西浦焼を生み出し、国際的にも評価を受けた。記念館は、庭園近くに建つ西浦家の蔵を利用して、令和2(2020)年に開館した。展示内容は、明治天皇ご巡幸の様子や西浦焼、西浦家に残る歴史資料、明治から昭和にかけての道具類などである。

入館料：無料

休館日：多治見陶器祭、文化の日、第2土・日曜日に開館、それ以外は担当まで事前予約が必要



### 143 小泉子ども美術館 (蔵珍窯)

(多治見市太平町6-87、TEL 0572-23-6122)

平成9(1997)年に多治見市にある蔵珍窯(ぞうほうがま)の工房内に、子供たちの創作する芸術作品を永久的に保存・展示するために開館された。

入館料：無料

休館日：年末年始



### 144 こども陶器博物館 KIDSLAND ((株)金正陶器) (多治見市旭ヶ丘10-6-67、TEL 0572-27-8038)

美濃焼卸センター内にあり、館内には、大正から現在までに生産されたこども食器を展示している。その他にも絵付け体験工房やミュージアムショップなどがある。

入館料：大人300円、小学生以下無料(企画展期間中は変更あり)

休館日：月・火曜日(祝日開館)



## 145 土岐市美濃陶磁歴史館

(土岐市泉町久尻1263、TEL 0572-55-1245)

昭和54(1979)年に国史跡「元屋敷陶器窯跡」の近くに開設された。重要文化財の「岐阜県元屋敷陶器窯跡出土品」を中心に市内の窯跡からの出土品を保管・展示している。また、志野焼や織部焼など美濃桃山陶を中心に美濃焼や地域の歴史を研究・紹介している。

入館料：大人200円 高大生100円

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始、臨時不定休制あり



## 146 土岐市立陶磁器試験場・セラテクノ土岐

(土岐市肥田町肥田287-3、TEL 0572-59-8312)

やきもの文化の継承と美濃焼産業の振興の拠点施設。製型室、製造室、焼成室、実験室、デザイン室、研修室やホールなどがあり、やきものを学び、研究するには抜群の環境である。ロビーにはピラミッド型のモニュメントがある他、「やきものができるまで」の資料が展示されている。

入館料：無料

休館日：年末年始(陶磁器試験場は土日祝祭日は休業)



## 147 ㊦ すりばち館 (マルホン製陶所)

(土岐市駄知町2321-55、TEL 0572-59-8730)

すり鉢生産で日本一のシェアを誇る明治43(1910)年創業のマルホン製陶所の資料館である。昭和初期の炭窯・煙突・作業場(モロ)が残っており、建物は、窯屋の作業場をそのまま展示資料館として、日本一のすり鉢や古いすり鉢などのほか、昔の窯道具が多数展示されている。

入館料：無料

休館日：土曜日、日曜日、休日



## 148 駄知印版館 (清山窯)

(土岐市駄知町2321-236、Tel 0572-59-8442)

明治時代以降に、焼き物の大量生産を支えた絵付け技術「印判」を利用した作品の展示をしている博物館で、「清山窯ギャラリー」に併設されている。摺絵、銅版、摺絵赤絵といった技法や原版について、2500点に上る資料を随時展示している。そのほか、「駄知どんぶり」や駄知の歴史を学ぶことができる資料を展示している。

入館料：無料

休館日：不定休、年末年始



## 149 瑞浪市化石博物館

(瑞浪市明世町山野内1-47、TEL 0572-68-7710)

昭和49(1974)年に開館した全国でも珍しい化石専門の博物館である。瑞浪市周辺には、今から2000万～1500万年前の新生代中新世の湖や海でできた瑞浪層群と呼ばれる地層が広く分布しており、この地層からは、貝・魚・ほ乳類・植物などおよそ1500種類におよぶ化石が産出する。化石博物館では、市内各所から採集された化石をはじめ、25万点以上もの化石を収蔵・保管し、常設展示室では約3000点を展示している。

入館料：大人200円 高校生以下無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、  
年末年始



## 150 瑞浪市陶磁資料館

(瑞浪市明世町山野内1-6、TEL 0572-67-2506)

古代から現代に至る美濃焼の歴史を、時代を追って展示しているほか、瑞浪市出身の人間国宝・加藤孝造氏の作品展示室もある。屋外には、実際に焼成可能な登り窯や千本杵搗の大水車などが展示されている。また、年に数回の企画展や特別展、作陶・絵付けなどの体験教室を開催している。

入館料：大人200円 高校生以下無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、  
年末年始



## 151 岐阜県先端科学技術体験センター

### サイエンスワールド

(瑞浪市明世町戸狩54、TEL 0572-66-1151)

全国的にも珍しい体験型の科学館で、展示物などはほとんど無く、実際に自分で科学工作や科学実験に挑戦し、様々な科学を体験することができる施設である。エントランス部分は遠心分離機をモチーフとした外観となっている。

入館料：無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、  
年末年始



## 152 瑞浪市市之瀬廣太記念美術館

(瑞浪市明世町戸狩2-17、TEL 0572-68-9400)

瑞浪市出身の彫刻家市之瀬廣太氏の作品約300点を収蔵・公開し、氏の業績を後世に伝えると共に、広く美術に関する知識・教養の向上に資するため、平成3(1991)年に開館した。常設展示では、市之瀬廣太作品を展示しているほか、瑞浪市とゆかりのある芸術家や作家等の作品も展示している。

入館料：大人200円、高校生以下無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、  
年末年始



## 153 ミュージアム中仙道

(瑞浪市明世町戸狩331、TEL 0572-68-0505)

中央自動車道瑞浪IC近くに、平成4(1992)年に開館した私立美術館で、地歌舞伎資料・陶磁器・日本画・武具甲冑の4つのテーマをもうけて展示し、日本の美術文化が観賞できるように配慮されている。また、企画展やコンサート、講演会などが開催されている。

入館料：大人300円、中学生以下無料

休館日：月曜日（祝祭日の場合は翌平日）、  
年末年始



## 154 美濃歌舞伎博物館相生座

(瑞浪市日吉町8004-25、TEL 0572-68-0205)

「相生座」は、旧恵那郡明智町にあった常盤座と旧益田郡下呂町にあった相生座の舞台や客席などを組み合わせ、昭和51(1976)年に瑞浪市日吉町に移築再現したものである。これに先立ち、昭和46年に衣裳の寄託を受け、それを期に「美濃歌舞伎保存会」が発足し、翌年から毎年公演を行っている。小屋の持つ独特な雰囲気を味わい、収蔵品を見学してもらうために「相生座」を「美濃歌舞伎博物館」として、収蔵している農村歌舞伎の衣裳、かつら、小道具類約4,000点の一部を展示している。

入館料：大人300円、中学生以下無料

休館日：月曜日、年末年始（見学は要予約）



## 155 瑞浪市自然ふれあい館

(瑞浪市釜戸町1069-307、TEL 0572-63-0015)

瑞浪市の東部に広がる「竜吟の森」は、竜吟七滝を擁する竜吟峡を中心とした緑豊かな里山である。竜吟峡の一の滝付近にあるログハウスが「瑞浪市自然ふれあい館」で、中には竜吟の森や自然についての理解を深める展示がされており、講座も企画される。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



## 156 半原版画館

(瑞浪市日吉町5125-4、TEL 0572-69-2474)

明治時代の石版画は、「刷り物」と呼ばれ、写真に近い再現性があり、庶民が自ら手に取り楽しむ絵画として親しまれていた。その石版画を中心に現代版画・ガラス・民芸品などを収蔵し、その展示及び現代作家（多分野）の作品を展示している。

入館料：無料

休館日：随時開館、事前連絡が必要



## 157 瑞浪芸術館

(瑞浪市稲津町萩原1220-2、TEL 0572-66-2170)

NPOが運営するギャラリー。江戸時代の茅葺民家を移築し、中村好文による現代性（鉄のゲート等）を取り入れて再構成している。本物のアートをコンセプトとして、文化センスある人づくり、誇りある街づくりを目指して企画展や公開講座を開催（要電話確認）している。  
入館料、休館日：要電話確認、ホームページを確認



## 158 瑞浪鉱物展示館 ((株)中央ミネセラム運営)

(瑞浪市寺河戸町1205、TEL 0572-67-2140)

私立の鉱物・宝石の専門博物館で、世界の金鉱物種約5000種のうち3300種、17000点と研磨された宝石5000点を登録標本として収蔵している。これらのうち鉱物標本3000点、宝石標本3000点を鉱物展示室、宝石展示室に公開展示している。展示館の1階には付属の宝石店が併設されている。

入館料：無料

休館日：火曜日・年末年始

(宝石展示室の見学は予約が必要)



## 159 中山道広重美術館

(恵那市大井町176-1、TEL 0573-20-0522)

旧中山道大井宿があった恵那市では、駅周辺の再開発事業を進める中、市内の浮世絵収集家から寄贈を受けた歌川広重の「木曾海道六拾九次之内」など浮世絵コレクションを中心とした美術館を平成13(2001)年に駅の近くに開館した。浮世絵の「田中コレクション」や美術品の「吉村コレクション」などの所蔵品を中心に年間を通じて企画展等で公開している。

入館料：大人520円（特別企画展は別料金）、  
18歳以下無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、  
年末年始、展示入替期間



## 160 中山道ひし屋資料館

(恵那市大井町 60-1、TEL 0573-20-3266、

問合せ先 恵那市教育委員会 TEL 0573-26-2111)

旧中山道大井宿の商家「ひし屋」古山家は、江戸時代中期以降、大井村の庄屋を務め、明治以降は郵便取扱役、恵那郡役所掛屋（銀行）に任命され、養蚕研究や俳諧文化の推進にも尽力した家柄である。建物は明治初年に改築されたが、平成 9(1997)年に市の文化財に指定された。この建物を改修・復元し、大井宿の町屋を体験できる施設として平成 12 年に開館した。蔵を改修した展示室には、中山道、大井宿、ひし屋の 3 コーナーを設けて展示している。

入館料：大人 200 円、18 歳以下無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、  
年末年始



## 161 岩村歴史資料館・岩村民俗資料館

(恵那市岩村町98、TEL 0573-43-3057、

問合せ先 恵那市教育委員会TEL 0573-26-2111)

岩村歴史資料館は、岩村城跡の麓の岩村藩藩主邸跡に建てられている。「享保3年岩村城絵図」「明和3年岩村城平面図」「佐藤一斎自讃画像軸」(いずれも県重要文化財)をはじめとする、多くの岩村城、岩村藩関係史料を収蔵展示している。併設されている民俗資料館は、民家を移築したもので、先人の生活をしのぼせる数々の民具が展示されている。岩村城跡へは、ここから徒歩約20分である。

入館料：大人300円 65歳以上200円 高校生以下無料  
休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始



## 162 岩村まち並みふれあいの館

(恵那市岩村町263-2、TEL 0573-43-3231)

重要伝統的建造物群保存地区の中ほどにあり、古い町並みに馴染む旧銀行を利用しており、観光客が気軽に立ち寄れる岩村城下町の観光案内所である。館内には、各種パンフレットや土産品などを取り揃えた『えなてらすいわむら』を併設している。またすぐ近くには、市の文化財に指定された木村邸や土佐屋、勝川家などの町屋施設もある。

入館料：無料  
休館日：年末年始



## 163 日本大正村

(恵那市明智町1844-3、TEL 0573-54-3944)

昭和63(1989)年に、旧恵那郡明智町の町おこしとして構想・立村された。街全体として大正時代の雰囲気再現した店舗、資料館、博物館などが軒を連ねている。郵便局や銀行は実際の窓口業務を行っている。大正ロマン館、日本大正村資料館、大正時代館の3施設は共通入場券が必要であるが、それ以外の施設の見学は入場料不要である。また、村内のレストランおよびコテージは第三セクターが運営している。旧明智町役場が日本大正村役場となっている。

入館料：大人500円、小中学生300円  
(有料施設共通入場券)

休館日：年末年始



## 164 大正ロマン館

(恵那市明智町1304-1、TEL 0573-54-2014)

「日本大正村」内の洋風建築で初代日本大正村村長高峰三枝子氏、初代議長春日野清隆氏の記念館となっている。その他大正時代のヨーロッパの家具・オルゴール・山本芳翠の油絵などが展示してある。

入館料：大人300円 小中学生150円  
休館日：年末年始





## 165 日本大正村資料館

(恵那市明智町1860-7、TEL 0573-54-3947)

日本大正村の中心施設のひとつで、明治から大正時代にかけての教科書や雑誌・蓄音機やレコード・衣類・生活用品などが展示されている。建物は、銀行の倉庫として建てられ、「銀行蔵」と言われている。銀行が預かったり買い取ったりした繭(まゆ)を保存した蔵で、2棟あり、東の蔵は大正7(1918)年に、西の蔵は明治42(1909)年に竣工し、市の文化財に指定されている。

入館料：大人300円 小中学生150円  
休館日：年末年始



## 166 大正時代館 (天久喫茶)

(恵那市明智町876-10、TEL 0573-54-3549)

大正時代にこだわった資料館で、大正天皇に関する展示や当時の標準的な家庭を様々な生活道具を使って展示している。1階には当時の新聞やレトロなポスターなどの展示。隣接する「カフェ天久」は、当時のままの喫茶店として営業している。

入館料：大人300円 小中学生150円  
休館日：年末年始



## 167 通信資料館 (明智)

(恵那市明智町1862-4、TEL 0573-54-3944)

明治8(1875)年に開局したこの地方の草分けともいえる郵便局で、同30年には電信・電話業務も兼ねた。明治初期の洋風建築で、郵便・電信の歴史、変遷の分かる資料が展示してある。大正時代に、内部2階のモダンな出庇に欄間風の彫り物を加え、局舎を青くペンキ塗りの装いは、大正村を代表するモダン建築の1つである。

入館料：無料  
休館日：年末年始



## 168 串原郷土館 (NPO法人 奥矢作森林塾)

(恵那市串原1268、TEL 0573-52-2411)

矢作ダムによる水没家屋を移築したもので、江戸時代末期の典型的な民家である。文化財として保護をするとともに、現在はカフェとして活用し、一般開放することで、かつての村の生活文化を現代に伝えている。館内外には村人が使っていた素朴な民具類が配置されている。また前庭には湖底に沈む石仏の一部が奥矢作湖を見つめるように立っている。

入館料：無料  
休館日：不定期、冬季



## 169 中津川市中山道歴史資料館

(中津川市本町2丁目2-21、TEL 0573-66-6888)

中津川市には、五街道の一つ中山道が通り、中津川宿・落合宿・馬籠宿の3つの宿があり、商業・文化面から重要な役割を果たしてきた。ことに中津川宿の旧家から発見された古文書には、和宮降嫁や水戸天狗党の様子を示す文書、幕末の「薩長同盟」の密談を伝える文書など貴重な資料が多く存在している。これらの資料を後世に遺すため、旧脇本陣跡地でもある、NTT西日本中津川ビルを借用して、平成16(2004)年に開館した施設である。

入館料：大人(高校生以上)330円 小人無料

休館日：月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始



## 170 前田館 (ヤマツ食品(株))

(中津川市花戸町4-7、TEL 0573-65-2070)

日本画の前田青邨の生家でもあるヤマツ食品(株)店舗2階に、前田青邨を偲ぶためにつくられたギャラリーで、前田青邨の絵画を中心に、交流のあった横山大観、安田靉彦、梶田半古などからの手紙など、ゆかりの品々が展示されている。

入館料：無料

休館日：日曜、祝日



## 171 中津川市子ども科学館

(中津川市駒場1657-1、TEL 0573-66-9090)

中学生以下の子供を対象に、電気・光・力・音など、自然の仕組みについての原理を目で見るだけでなく、手で触れ、体験しながら楽しく学べる施設である。

入館料：大人(高校生以上)330円 小人(小中学生)無料

休館日：月曜日(祝日の場合翌日)



## 172 中津川市苗木遠山史料館

(中津川市苗木2897-2、TEL 0573-66-8181)

中世・戦国時代から明治時代初期に至る、苗木領の歴史的な文化遺産を保存・公開する史料館である。苗木遠山家の資料を中心に、苗木領と苗木城に関わる貴重な資料を展示し、関連する資料の調査・研究も行っている。苗木城跡の入口に位置し、苗木城跡見学の拠点施設でもある。

入館料：大人(高校生以上)330円、中学生以下無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始



## 173 中津川市鉱物博物館

(中津川市苗木639-15、TEL 0573-67-2110)

中津川市苗木・蛭川地域一帯は、水晶・トパーズをはじめとする多くの鉱物を産し、鉱物の一大産地「苗木地方」として知られてきた。その苗木地方で産出する鉱物など多くの鉱物標本を展示している。鉱物や地域の地質について学ぶことができる、国内でも数少ない地質系の自然誌博物館である。レアアースを含む鉱物など貴重な標本からなる「長島鉱物コレクション」を収蔵し、その一部が常設展示されている。

入館料：大人(高校生以上)330円 小人無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始



## 174 ストーンミュージアム博石館

(中津川市蛭川5263-7、TEL 0573-45-2110)

蛭川から産出される鉱物を中心に、世界各地の珍しい鉱物が展示されている鉱物展示館である。蛭川産みかげ石5500トン積み上げて、エジプトのピラミッドを10分の1の大きさで再現しており、中には全長350mの地下迷路が広がっている。

入館料：大人(中学生以上)1000円、小学生500円

休館日：年末年始(12/29~1/1)



## 175 古銭資料館

(中津川市瀬戸1255-6、TEL 0573-65-3818)

貨幣関係資料を中心に収蔵し、各種通貨(金貨・銀貨・銭貨・藩札・札)、両替商看板、銭箱、勘定皿、両替の店先、日本画、陶磁器、刀剣類の展示している。歴史や資料の持つ役割、貨幣と社会の関わりについての知識を深めることができる施設である。

入館料：無料

休館日：不定休(事前に電話予約が必要)



## 176 山野草園

(中津川市瀬戸1255-2、TEL 090-2136-3818)

平成26(2014)年に開園した植物の博物館である。フィールド内には約150種類の山野草が見られ、四季折々の福寿草、雪割草、シラネアオイ、ミズバショウ、カタクリ、エビネ、ヒメサユリ、山アジサイ、キレンゲショウマなど、年間を通して草花を観賞することができる。また展示コーナーには、福寿草や雪割草などの写真パネルを展示している。

入館料：無料

休館日：不定休(事前に電話予約が必要)



## 177 熊谷守一つけち記念館

(中津川市付知町7713、TEL 0573-83-0050)

付知町生まれの熊谷守一の作品の収集家である小南佐年が私財を投じて、平成27(2015)年に設立した美術館である。昭和51(1976)年から運営されてきた「熊谷守一記念館」が所蔵する守一作品は「熊谷守一つけち記念館」に寄託されている。これまでの「熊谷守一記念館」は、守一の娘榎氏の作品を展示する「熊谷榎つけちギャラリー」となっている。

入館料：大人700円、中学生以下無料

休館日：月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始、展示入替期間



## 178 フォークジャンボリー記念館

中津川市坂下総合事務所第2庁舎3階、担当やさか観光協会（中津川市坂下1665-5、TEL 0573-75-4444）

1969年～1971年に中津川市椈の湖畔で、日本初の野外音楽フェス「全日本フォークジャンボリー」が開催された。当時の貴重な写真や資料などを多数を展示した記念館がオープンした。見学は完全予約制で、フォークジャンボリーの運営に関わった方の説明を受けることができる。

入館料：無料（完全予約制）

休館日：土・日・祝日



## 179 藤村記念館

(中津川市馬籠4256-1、TEL 0573-69-2047)

記念館は木曾谷の最南端にあり、島崎藤村の生家である馬籠宿本陣跡に建っている。明治から昭和にかけて活躍した文豪・島崎藤村の、『夜明け前』『嵐』などの作品原稿、遺愛品、周辺資料、明治大正詩書稀観本コレクションなど約7,500点を所蔵している。常設展示室には処女詩集『若菜集』から絶筆『東方の門』までを展示しており、藤村の生涯をたどることができる。

入館料：大人500円 小人100円

休館日：12月～2月毎水曜日



## 180 中津川市東山魁夷心の旅路館

(「道の駅賤母」敷地内)

(中津川市山口 1-15、TEL 0573-75-5222)

東山画伯が、青年時代にこの地への旅のときに受けた心のふれあいが縁となって、画伯より700点を越える版画作品の寄付をうけた。その展示施設として平成7(1995)年に、「道の駅」賤母の敷地内に小さな版画館が開館した。

入館料：大人330円、小中学生無料

休館日：水曜日、年末年始(12/27～1/5)、臨時休有

